

2016年9月28日

ご報告

(株)表現文化社 編集長 碑文谷 創

雑誌『S O G I』ならびに当ホームページをご支援いただき、心より感謝申し上げます。さて、このたび重要なお報告をさせていただきます。

雑誌『S O G I』をやむなく休刊させていただくことになりました。

8月10日発行した154・155号合併号（特集「葬送の原点と歴史」）が最終号となります。合わせて事務所も閉鎖いたしましたことをご報告申し上げます。

1991（平成3）年1月に創刊号を発行し、以来2016（平成28）年8月発行の154・155号合併号まで、年に6冊発行を続けて25年半強になります。

この四半世紀刊行し続け、情報発信できましたのは、ひとえに読者の皆様のご理解、ご支持、ご支援の賜物です。死と葬送を人間の営む文化ととらえ、常に宗教・哲学・歴史・社会、法、事業、消費者視点といった多角的視野で考えていこうという雑誌の基本理念をご理解いただきましたことに、あらためて心より感謝申し上げます。

雑誌刊行の期間は、ちょうど高齢化が進み、地域社会、家族も大きく変化し、葬送も個人化の方向に大きく舵を切った大きな変革期にあたります。未だ死や葬への忌避意識の残る社会であって、人間の死と葬送の原点を探りつつ、新しい事態へどう対応し、変化していくべきかを求めて、葬送の現場を一つひとつ訪ねてはレポートし、読者と共に考えていく雑誌でありたい、と考えて、歩み続けてまいりました。ジャーナリズムとしては、これまで携わる人のほとんどいない未踏の分野であり、『S O G I』1号1号の執筆・編集作業は試行錯誤の連続で、模索の中での必死な作業でした。多くの方々のご協力があったことです。

しかし、近年徐々にご購読いただく方が減少し、その減少を食い止めることができませんでした。

そのため、当社は5千万円超の多額の負債を抱えることとなり、もはや回復が見込めない状況となりましたので、今般やむなく雑誌『S O G I』の休刊に至り、株式会社表現文化社の事務所も閉鎖いたしました。

なお、当社が編集等を行っていた葬祭ディレクター技能審査関連書籍は、従前どおり葬祭ディレクター技能審査協会にてお求めいただくことができます。念のため申し添えさせていただきます。

表現文化社は閉鎖しましたので、ご連絡は以下のメールで碑文谷個人が受け取り、必要な方へは返信させていただきます(碑文谷個人の携帯電話は機能しています)。

hajimeh46@nifty.com

以上